

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年6月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4074500200
法人名	社会福祉法人 南十字福祉会
事業所名	グループホーム福岡
所在地 (電話番号)	福岡県福津市上西郷738番地 (電話) 0940-34-3303
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年5月12日

【情報提供票より】(平成21年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 11人, 非常勤 8人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,100 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要(平成21年4月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮城病院、岩橋病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周囲を畑や緑に囲まれた展望の良い丘陵地に位置しており、広い敷地内には畑や花壇があって、利用者と職員と一緒に季節毎に野菜や花を作り楽しんでいる。また、居室や廊下、共用部分も広く管理者、職員は利用者一人ひとりが楽しくその人らしく過ごすことを理念に掲げて、一人ひとりの日課となっている花の水やりやホーム周辺の散策、パズル、俳句などの楽しみ事を見守りゆったりとした生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム便り、運営推進会議の開催、書類の整理など外部評価を活かして具体的改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自己評価内容を全員で検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表、自治会長、市町村担当者等の参加で3月に会議が開催されており、5月15日に次回会議開催予定になっている。しかし昨年1年間会議が開催されていないため会議の中での意見をサービス向上に活かすには至っていない。市主催の会議やイベント等には積極的に参加しており、地域外からの入居希望がある場合などは市町村担当者へ内容を説明して協力を求めサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	ホーム便りで行事や暮らしぶり、健康状態などを毎月報告しており、散髪や個人的な買い物代金は事業所が立て替え払いをして毎月領収書を郵送し、利用料金と一緒に徴収している。職員の異動等については家族面会時に報告している。家族会を3か月に1回の開催予定としており、敬老会等の行事に合わせて実施している。意見箱を玄関先に置き、また、家族訪問時にも苦情や不満を積極的に聞く努力をしており、職員の言葉使いが悪いと家族からの苦情を受けた際は、職員会議で話し合い改善している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元自治会に入って自治会長を通じて情報交換を行い、地区の夏祭りや盆踊りに参加している。また、福津市の行事やイベント(なまずの郷公園、あんずの里公園)、近くの花畑での菜の花祭りやコスモス祭り、市中央公民館での上映会などに参加して地域の人々との交流に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の見直しを全職員で行い、<笑顔の我が家「地域と共に生き」楽しくその人らしく>と地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を新たにつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングなど見やすい位置に理念を掲げて利用者に関わる際に具体化することを意識して取り組んでいる。ミーティングや職員会議の場でも理念を確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会に加入し自治会長を通じて情報交換を行い、地区の夏祭りや盆踊りへ参加している。また、福津市の行事やイベント(なまずの郷公園・あんずの里公園)、近くの花畑での菜の花祭りやコスモス祭り、市中央公民館での上映会などに参加して地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、全員で評価内容を検討している。外部評価についてもホーム便り、運営推進会議の開催、書類の整理など、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、自治会長、市町村担当者等の参加で3月に会議が開催されており、5月15日に次回会議開催予定になっている。しかし昨年1年間会議が開催されていないため会議のなかでの意見をサービス向上に活かすには至っていない。	○	運営推進会議には利用者、家族、地域住民、行政職員等幅広い立場の人々の参加を求めて継続的に会議を開催することが重要で、事業所の取り組み内容などの報告や参加者からの意見や要望の引き出しを行って、サービスの質の向上に活かしていくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の会議やイベント等には積極的に参加しており、地域外からの入居希望がある場合などには市町村担当者へ内容を説明して協力を求めサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者に1名成年後見制度利用者がおり、管理者は制度に関する勉強会へ参加している。しかし、職員への内部研修が実施されていないので必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。	○	管理者、職員は共に地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な人にそれらを活用できる体制を整えることが望まれる。
日常生活自立支援事業					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りで行事や暮らしぶり、健康状態などを毎月報告しており、散髪や個人的な買い物代金は事業所が立て替え払いをして毎月領収書を郵送し、利用料金と一緒に徴収している。職員の異動等については家族面会時に報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を3か月に1回の開催予定としており、敬老会等の行事に合わせて実施している。意見箱を玄関先に置き、また、家族訪問時にも苦情や不満を積極的に聞く努力をしており、職員の言葉使いが悪いと家族からの苦情を受けた際は、職員会議で話し合い改善している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望(夜勤回数を少なくなど)に応じた勤務体制を組んで職員の離職を最小限に抑える努力をしている。離職等で職員の交代がある場合は1ヶ月間は指導する職員が行動を共にし、夜勤業務も2回～3回は2人体制で一緒に勤務して利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	23歳～67歳の職員が採用されており、年齢や性別を理由に採用対象から排除することはない。また、職員の希望する休日もとることが可能で、事業所で働く職員の社会参加や自己実現の権利が保障されるよう配慮されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修会へ法人全体の職員の中から毎年数名が参加している。しかし、事業所内で職員に対する人権教育、啓発活動への取り組みができていない。	○	入居者に対する人権を尊重するために、外部研修会へ参加した職員が事業所内での研修の場を設けて伝達研修を行い、全ての職員が自己研鑽に努めることが望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には法人全体の中から人選された職員が参加しているが、事業所内での伝達研修や段階に応じて育成するための計画が不十分である。	○	外部研修に参加した職員の事業所内での伝達研修や、各職員が段階的に力をつけていけるよう事業所としての計画を立てて、職員の質の確保・向上に向けた研修の機会を確保することが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会は発足していないが、職員は個別に同業職員と交流し、管理者同志の交流や意見交換を通じてサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始には本人の納得を得ることが最も重要なので、家族、本人にホームへ来ていただき、十分話し合ってから体験入居やホーム内見学等で場の雰囲気に馴染んでもらい、本人が納得した上でサービスを利用できるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活慣習や調理方法、子育てについてなど職員は利用者と一緒に過ごす中で学んだり、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活する中で、一人ひとりの思いを汲み取るように努め、訴えや意見を傾聴している。また、その思いを尊重し本人に合った暮らしが出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎朝の申し送りやミーティングの時に本人の状況等を報告し記録している。家族とも話し合いを行い、本人が望む暮らしが継続できるような、介護計画となるように作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回の見直しをしている。状況の変化等が生じた場合は、すぐに計画内容を変更するようにしている。また、状況の変化等を家族に報告し、意見をもらい、関係者と話し合ってから現状に即した新たな介護計画となるように作成しているが、介護計画の作成が実施日までに作成されていない。	○	介護計画を実施日までに作成されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容室や買い物への同行、及び家族が受診同行できない場合の医療機関付き添い等、一人ひとりの状況・状態に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望に添えるように努め、今までのかかりつけ医療機関を継続されるよう勧めている。また、状態については家族・医療機関との連携・連絡等を密に行い、適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の運営方針として重度化や終末期介護を行っておらず入院で対応していただくことを入居時に本人、家族に説明し了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の情報・記録等は職員のみが出入りする部屋に保管、管理している。職員は利用者一人ひとりの尊厳を守り、常に言葉使いや行動には気をつけるように配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員サイドで一日のプログラムを作るのではなく、一人ひとりのペースに合わせ、花の水やりや草取りをしたり、ソファにて新聞を読んだりとゆっくり一日を過ごせるようにしている。常に本人の希望を優先するように努め、状況を見てはゲームやカラオケ・散歩等を職員と一緒にを行うように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、調理の下準備や片付け等を一緒に行い、職員は声かけや見守り等を行いながら、同じテーブルを囲み同じ食事を一緒に楽しく摂っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を週3日(月・水・金)としているが、入浴日以外にも希望があれば、利用者の希望に合わせて入浴が出来るようにしている。常にゆったりと気持ちよい入浴が出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や能力を活かせるように、俳句づくりや季節ごとの野菜や花づくり、陶芸や料理の下ごしらえ等をしてもらっている。また、楽しみや気晴らしにトランプやゲームを行い、一日を楽しくのんびり過ごせるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者と一緒にショッピング・ドライブ、野外活動に行くことがある。本人の希望で買い物に行き、支払いを自分でされるのを見守り援助することもある。家族の協力を得、外出の機会が増やせるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜19:00から朝7:00まで鍵をかけ、日中は施錠せず玄関にはチャイムが鳴るようにしている。利用者は自由に出入りでき、外出しそうな様子を察知したら職員が声をかけたり一緒についていくなどして安全面に配慮し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡体制は整っており、連絡により全職員が対応できるようにしているが、定期的な避難訓練等は実施していない。	○	火災・災害時の昼夜を想定した避難訓練を定期的に行い、地域の協力を得られるような働きかけが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士が作成した献立表をもとに調理を行っている。一日の食事摂取量の記録があり、把握できている。水分量は一人ひとりの習慣に応じてお茶・お湯を居室内に置くようにし、体操や入浴・レクレーション後は水分補給に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花があり、利用者の作品や写真が飾ってある。ホームには中庭があり、季節の花や観葉植物が見られるようになっている。居間・食堂は天井が高く、開放感があり、居間にはピアノが置いてあったり、大きな絵画が飾られている。常に不快感なく居心地良くゆったり過ごせ、空気の入替えや温度調節にも気を配っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋は広く、大きな出窓があり、窓からは田園風景が見え、見晴らしが良い。写真や花、自分の作品(ジグソーパズル・折り紙等)が飾られて、それぞれの個性が出ている。入居時に本人が今まで使用していたタンスやテレビ・コタツなどを持ち込まれるようにお願いし、在宅時の生活に近い状況の中で違和感なく、居心地よく過ごせるように配慮している。</p>		